

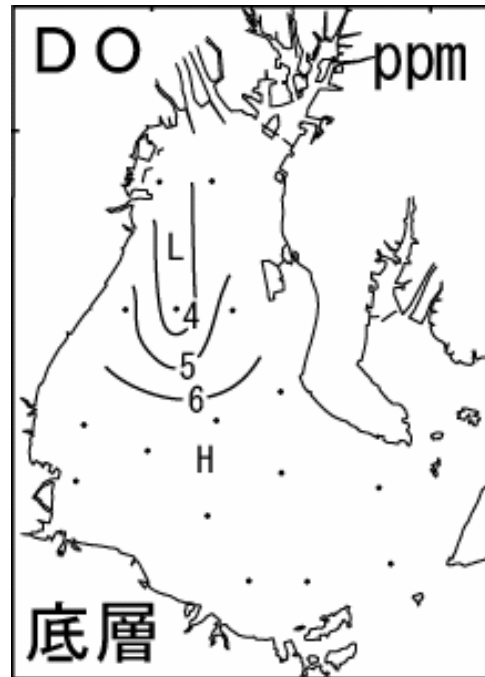
伊勢湾貧酸素情報（第 6 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

11月5日の調査では、伊勢湾底層の貧酸素水塊は消滅し、6月から10月まで継続していた貧酸素状態は解消した。

1 11月5日の調査結果

11月5日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で18.7～20.0℃、10mで18.8～21.0℃、底層で18.9～21.1℃の範囲にあり、表層と10mでは平年よりやや高め、底層では平年並からやや高めとなっていた。塩分は表層では20.67～32.23、10mで31.45～32.53、底層で31.48～33.25の範囲にあり、表層では平年並から低め、10mでは平年並、底層では平年並からやや低めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層で6.3～8.3ppm、10mで3.7～7.1ppm、底層で3.7～6.9ppmの範囲にあり、表層と10mでは平年並からやや低め、底層では平年並からやや高めで、DO値2ppm以下の貧酸素水塊は消滅し、今期の伊勢湾底層の貧酸素状態は11月上旬になってようやく解消した模様である。



溶存酸素量分布図